

セセリチョウの仲間では絶滅危惧種に選定されている希少種は、北海道特産種であるヒメチャマダラセセリ、北海道、本州（東北・関東・中部）、四国に分布し近畿と九州とには生息しないチャマダラセセリ、本州と対馬にしか生息しないホシチャバネセセリ、本州の特産種であるアカセセリ、そして石垣島と西表島の特産種であるアサヒナキマダラセセリの5種がある。

筆者の郷里である高知市で、少なくとも1956-1962年にはチャマダラセセリを春型と夏型として年に二度は観察することができたが、当時写真撮影記録をとるなどという習慣はなく、他のセセリチョウ科の項でふれたように本属を標本とすることにあまり熱心ではなく、ほとんど絶滅したと考えられる今になって、せめて標本を残しておくべきだったと悔やんでいる。

ホシチャバネセセリに関しては、プロ級のカメラ撮影技術をもつ友人が信州などのどこかで本種の撮影に成功していて、兵庫県の限られた生息地でも撮影していることは知っていたのだが、そこがどこだと教えてもらってまで出向く考えはなく、北海道のヒメチャマダラセセリ同様、おそらく一度も目にする事はかなわないチョウだと決めつけていた。

ところが、2013年7月、思わぬタイミングで生きた本種に出会うことができ、貴重な撮影記録もとることができた。そして、その場所はどうか友人が本種を撮影したところそのものだと聞かされ、本種に出会えるなどとはまったく考えもしないチョウ探索行動の過程で偶然目の前に現れてくれた本種にただただ感謝するばかり。同行した他の友人二人も、よくぞこのような小さなチョウに気づいてくれたと筆者による本種の発見を喜び、みんなして撮影に夢中となったひと時であった。

